

清水ヶ丘便り

SUWA SEIRYO HIGH SCHOOL NEWS 2010.12 vol.27

中高一貫教育の導入へ 併設型・平成26年度開校予定（県教育委員会）

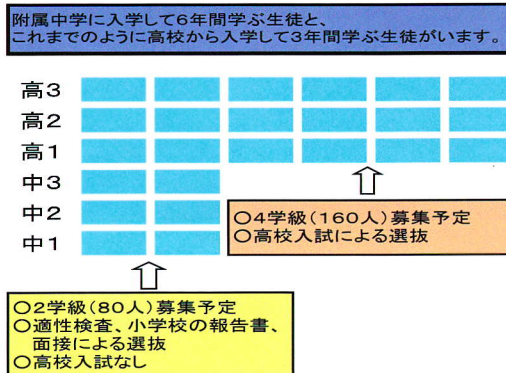
本校では、併設型中高一貫教育を導入して本校の伝統を未来につなげていく方向で意見をまとめて、10月7日に長野県教育委員会に要望書を提出しました。こうした私達の願いに応え、長野県教育委員会は11月4日の定例会で、「中南信における併設型中高一貫校の設置計画（案）について」を発表し、その中で「設置校は、諏訪清陵高等学校とする。」と明記しました。

今後、さらに全国や県内の学校視察を行いながら、具体的な教育内容の検討を深め、諏訪地域の中等教育のモデルとして教育力向上に資することができる中高一貫教育を創り上げていきたいと考えています。・・・

◇ 中高一貫教育のめざすもの

- 116年の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、21世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する。
 - 将来の研究活動や社会貢献につながる重厚な教養主義による確かな知性の伸長
 - 探究的な学習による深い思考力と主体的に学ぶ力の涵養
 - 6年間の計画的な進路学習による将来を展望する構想力と自立心の育成
- 生活全般を通して多様な経験を積む機会を設け、豊かな人間性や公共性、社会性を育む。
 - 社会の人々とのふれあいをとおした、共同意識やコミュニケーション能力の育成
 - 幅広い年齢集団の交流を活用した、協調性や指導力の涵養

◇ 併設型とは



◇ 併設型中高一貫教育導入まで

平成・年	長野県教育委員会関連	諏訪清陵高等学校関連
10	中高一貫教育研究会議の設置(10月)	
12	中高一貫教育研究会議の報告(3月) ○ 公立学校への導入計画について、できるだけ早期に検討する必要がある。 中高一貫教育検討委員会の設置(4月)	
13	中高一貫教育検討委員会の「まとめ」公表(3月) ○ 併設型については、平成16年度以降の設置をめざす。	中高一貫教育検討委員会の設置(4月) 中高一貫教育検討委員会の校内答申発表(9月) ○ 併設型中高一貫教育を導入したいという意向を県へ報告する。
19		ビジョン委員会に中高一貫検討部会を設置・検討(5月)
20	長野県高等学校再編計画の骨子(9月) ○ 改めて中高一貫教育の導入について検討を行うこととする。	中高一貫検討部会の報告(2月)
21	第1期長野県高等学校再編計画の発表(6月) ○ 本県におけるモデルケースとして位置づけ、東北信、中南信に1校ずつ設置する。 東北信における設置校を屋代高校に決定(10月)	諏訪地区中等教育懇談会(*1)に研究委員会の設置(6月) 中高一貫教育研究委員会(*2)の設置(9月) 同窓会・母校の発展を支援する会の要望書提出(10月) ○ 母校の将来のあり方の研究について、適切な時期を失うことの無いよう、積極的に推進していただきたい。
22	長野県屋代高等学校附属中学校(仮称)全体構想発表(8月) 中南信における併設型中高一貫校の設置計画(案)の発表(11月)	諏訪地区中等教育懇談会・研究委員会の答申(2月) ○ (公立中高一貫校については)諏訪地区への設置を期待する。 同窓会常任幹事会・幹事会(2月) ○ 中高一貫教育を含む母校の教育改革を支援する。 同窓会総会(6月) ○ 中高一貫教育の導入を支持し、支援していく。 併設型中高一貫教育の導入決定(9月) 学校要望書(*3)の県教育委員会への提出(10月)

- *1 諏訪地区中等教育懇談会 … 諏訪地区の高校再編をはじめとする教育課題を考えるため、6市町村の教育長、教育委員長、小中高PTA代表、小中高等学校長あわせて50名を会員として、平成18年に設置された。研究委員会は、その内の10名によって組織され、平成21年度は主に中高一貫教育について6回開催された。
- *2 中高一貫教育研究委員会 … 諏訪清陵高校教職員10名からなる研究組織。全国の併設型公立中高一貫校の調査研究を行うとともに、平成22年2月、3月には全国の7校を視察し、報告した。さらに平成22年度に入り、中高一貫教育導入の可能性について議論を重ね、2回の中間報告を行った。この間、23回の会議が開催された。現在は、中高一貫教育検討委員会に改組されている。
- *3 学校要望書 … 校内の検討結果をまとめ、長野県教育委員会に文書で提出した。本校の伝統を21世紀に生かす、中高一貫教育の可能性と教育理念を謳っている。

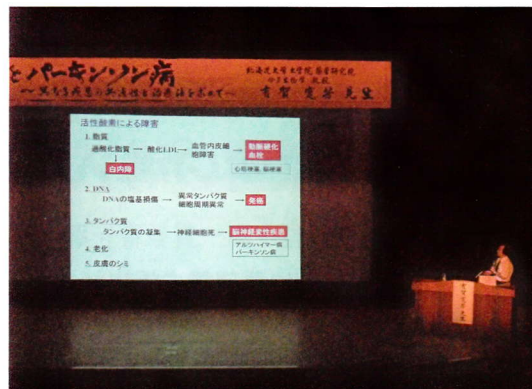
平成 14 年より文部科学省のSSH (スーパーサイエンスハイスクール) 事業を実施していましたが、平成 22 年度に 3 期目の指定を受け、5 年間の事業が新たにスタートしました。

第 32 回清陵サイエンスフォーラム 2 1

「癌とパーキンソン病

～異なる疾病の共通性と治療法を求めて～ (8/21)

北海道大学大学院薬学研究院 分子生物学教授 有賀寛芳氏 (72 回生) を講師にお迎えし、神経変性疾患と癌は、前者は脳細胞が死んでいき、後者は細胞が増えるというように、出口は全く異なるが、両方に共通の遺伝子があると考えられる、などの興味深いお話をして頂きました。

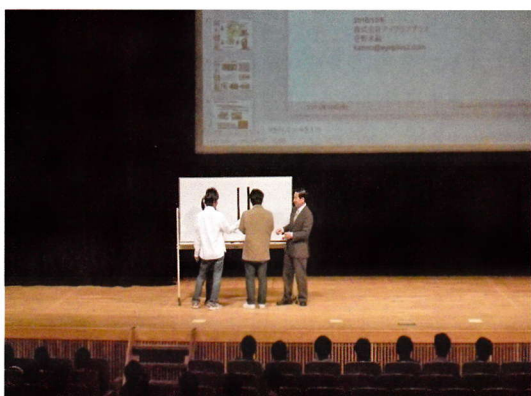


第 33 回清陵サイエンスフォーラム 2 1

「知的探究心と社会的使命

～広い視野から柔軟な発想で課題に挑戦～ (10/9)

株式会社アイプラス 代表取締役社長 菅野米蔵氏を講師にお迎えし、氏が開発した視覚障害者用感覚代行機 AuxDeco (オーデコ) を生徒代表が実際に体験してみました。オーデコのしくみについてや開発秘話、生徒への激励のお言葉を頂きました。

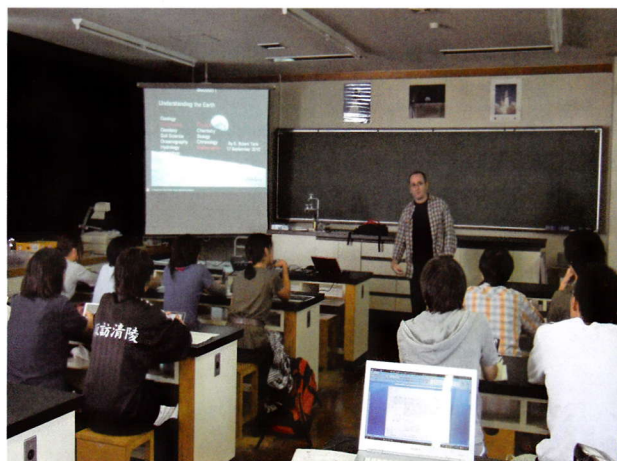


科学英語入門「Earthquake and Volcano」 (9/17)

海外科学セミナー事前研修として、東京工業大学火山流体研究センター 日本学術振興会外国人特別研究委員 Sabri B. Tank 氏に普段馴染みの無い科学英語について講義をして頂きました。

生徒の感想

- * アラスカでいきなり英語の講義を受けるのではなく事前に雰囲気がかめるので良かったです。(M.H)
- * 専門的な事からトルコの文化の事まで幅広く講義をして頂き、とてもよい経験になった。(A.I)
- * 図や写真などが多く楽しみながら勉強ができた。(Y.O)



コンピュータのしくみ (10/8)

エプソンダイレクト株式会社 調達・技術部課長 溝口英敏氏 (85 回生) をお迎えして、本物のパソコンを数人で一台ずつばらばらに分解し、コンピュータそのものだけでなく商品開発や部品の流れについても教えて頂きました。

生徒の感想

- * 普段見ないPCの中を見る事が出来たのでとても嬉しかった。バラしていくうちにどこに何があるかわかり、知識が増えていい経験が出来た。(K.I)
- * コードやメモリを抜いてPCを起動させる実験が面白かった。(N.M)
- * コンピュータの中身以外にも機能などの説明もあり、中の機械とともに何をやるのかも聞くことができた。(T.M)





東京外国語大学 外国語学部
マレーシア語学科
小坂 彩野

大学生ってこんな感じ

私は現在大学でマレー語を勉強しています。大マジで勉強しています。そんな言葉勉強して意味あんの？と思うでしょうか。私自身よく分かりません。しかし、楽しいので満足しています。やりたいからやる、大学はそういう場所です。

ところで、外大と清陵には多少なりとも似ている箇所があると私は感じています。例えば、外大にはボート大会があります。これに仮装して出場するチームがあります。（仮装は清陵祭の仮装の方が数倍レベルが高かったと感じました。）また、外大では、日本で暮らす外国人に対する差別意識がありません。在日韓国人の友達や、内モンゴル自治区出身の友達が私にもいます。清陵でも、外国人の友達が友達としてごく普通に馴染んでいました。私が清陵にいた頃にある先生が、「他の学校では外国人の生徒などは周りに馴染めないケースが多いが、清陵ではそのようなことはない。」とおっしゃられていました。私も清陵のそんな所が好きでした。今思えば、このような類似点が、上京して右も左も分からない私を助けてくれたのかもしれない。

最後に、一人暮らしを始めて気付いたことは、家族の大切さです。言葉にしてしまうといかにも陳腐になってしましますが、家族と共に暮らせるということは本当に幸せなことだと思います。東京には何でもあります。ありとあらゆる物が手に入ります。しかし、家族だけはいません。あんなに一人暮らしに憧れていた気持ちは、世間一般のJK並に父親をうとうとがっていた気持ちは、今や忘却の彼方です。

清陵生の皆さん、大学というものに大いに憧れてください。ただし、家族は大切に。



名古屋大学 理学部
立木 康一

こんにちは。立木といいます。

在学中は陸上部に所属していました。進学先は名古屋大学の理学部です。色々あった高校生活だったと思います。長くて覚えられない校歌、前衛的な新入生歓迎会、SSH 事業の一環のアラスカ研修、二年の冬に自転車を漕いで肉離れもしましたし、文化祭、受験、卒業式とか。そう言えば、卒業式で校歌は途中から鼻歌に変わりました。在校生の皆さんはどんな高校生活を送っているのでしょうか。

ところで、三年生の皆さん、センター試験が近くなりました。一つの大きな関門です。受験生にアドバイスをするのなら、センター試験では数学の科目をよく確認すること。試験前には十分睡眠をとること。この二つでしょうか。私は数学Ⅰと数学Ⅰ・Aを間違えて十点くらい損をしましたが、名古屋大学の試験では寝不足で試験中は体調が悪かったです。アドバイスが当たり前すぎてつまらないかもしれませんが、経験者からすると切実な思いを込めたつもりです。人間が大いに驚かされるのは‘当たり前’が崩れた時なのです。そう思いませんか？だからこそ、天動説が信じられていた時代にコペルニクスの地動説は否定され、コペルニクスが地動説を唱える基になったのが『神の作った世界は美しいに違いない』という彼の宗教的な信念だったという事実には驚くのです。（少なくとも私は驚きました。）と、言うわけで、三年生の皆さんは悔いの残らないよう頑張ってください。一、二年生は高校生活を精一杯楽しんでください。

1 学年進路係より

1学年前期の学習の目標として、英語・国語・数学の三教科を中心に基礎学力を養うことに努めてきました。特に、入学当初は家庭学習の取り組み方や学習法を経験するため、学習オリエンテーションを外部施設で実施しました。そこでは朝から夕方まで9時間程度の自主学習に取り組み、高校生としての学習を本格的にスタートさせました。また、夏休み前からLHRなどを使って文理選択についての学習を進めています。各自の文理の適性から大学・学部・学科調べまで様々な資料をもとに自身の文理の方向を模索しているところです。進路指導部が8月に実施した大学見学会（主に2年生）に参加して実際に大学を見学してきた生徒もいました。10月の土曜講座では学部・学科説明会を計画し、教育（筑波大）、外国語・国際教養（東外大）、政治・経済（早大）、医療・看護（信大）、工学（名工大）、人文（都留文大）、法（新潟大）、経済・経営（高崎経済大）、物理・化学（筑波大）、農・生物（東北大）の10の分科会を用意して、様々な分野の大学の先生に来ていただいて大学の模擬授業、学部学科の説明や進路実現のためのアドバイスをさせていただきました。生徒たちも熱心に受講し、また、質問をして各自の疑問点の解決に努めました。清陵では2年次より文系と理系にコースが分かれるため、いよいよ自分の進む道を真剣に考える時期になってきました。1学年としては生徒との個別面談や、保護者面談を実施し、本人・保護者・担任で文理選択に向けて、また進路に向けての考え方を共有しながら生徒の進路実現に近付けていきます。学習面においては、この秋からの後期は「学ぶ」ことの意味を主体的に受け止め、自ら積極的に学習に取り組む姿勢を目指していきます。

学友会 コーナー

生徒活動紹介のコーナー

ごあいさつ

学友会長 平林 怜

寒くなってきたら…そう鍋だ。トマト鍋、豆乳鍋、カレー鍋とその味の進化は止まらない。私は、清陵も鍋のようであるべきだと思う。

諏訪清陵高校という土鍋に放り込まれた私達が、それぞれの持ついい出汁 (idea) を目一杯だしていく。そしてそれを、考え抜くということでごつごつと煮えたぎらせていく。

そして清陵も先入観にとられることなく日々味を変えていこう。進化し続けよう。その為の新たな具材、調味料 (concrete plan) は本部会が中心にどんどん投入していきたいと思う。美味しいか、まずいか、皆さんにはよく吟味していただきたい。そしていずれは各々が自分の風味を僅かでも感じることができるような味に仕上げたいと思っている。

土鍋を囲んで、会話という名の討論の絶えない食卓 (学友会) を作っていきませんか。

後期学友会役員を紹介します



小平 航 赤羽隼弥 田中貴乃
宮坂文典 平林 怜
上原瑛美

清陵祭実行委員長 赤羽 隼弥

11月某日、外気温3℃。とても寒い秋の夜、自分はお風呂が溜まるのを待っていた。普段なら30分で溜まるのだがその日は1時間経っても溜まらない。これはおかしいと思いつい風呂へ向かうと、衝撃の事実が待っていた。風呂の栓が閉まっておらず、その穴から湯が流出してしまい、その日一日分の湯が切れてしまった…

話は変わるが穴といえば副実行委員長選の大穴、小平航。彼の話をしよう。彼は見た目とは裏腹にとっても『ポップ』な奴だ。ポップ小平って呼んでやってほしい。こないだ話をした時は、しょーもない駄洒落と自分の自慢しかしてなかった。関わってみなきゃ分からない、やってみなきゃ分からない事がこの世の中にはたくさんある。この青春を生きる今、青春の代名詞とも言うべき清陵祭が来年の夏、またやってくる。多くの清陵生や清陵祭に足を運んで下さる人々が清陵祭に関わり携わり何かに邂逅し、そして一生の思い出を築くための補佐役として精進していきたい。

端艇大会 (9月) 湖周マラソン (10月) 開催される



全国大会出場!!

- 端艇部** 第65回国民体育大会ボート競技会 (9/26～9/29) [千葉県香取市開催]
男子ダブルスカル 女子ダブルスカル の2種目で出場
平成22年度全国高等学校総合体育大会 第58回全日本高等学校選手権競漕大会 (8/7～8/10) [沖縄県大宜味村開催]
男子クオドルプル 女子クオドルプル 女子ダブルスカル 男子シングルスカル の4種目で出場
- かるた部** 第12回全国かるた競技富山大会

新人戦等 県大会出場!

- | | | | | |
|-----------------|---------|----------|----------|---------|
| 男子剣道部 (南信大会 優勝) | 女子剣道部 | 男子バスケット部 | 女子バスケット部 | バドミントン部 |
| 端艇部 | ソフトテニス部 | ハンドボール部 | スケート部 | 体操 |
| | | | 将棋部 | 古典ギター部 |

- サッカー部** 長野県ユースリーグ2部 (Bグループ) 2位 (勝点22)
陸上部 第57回富士見高原名勝探訪駅伝競走大会 一般男子の部 第1位
かるた部 長野県総文祭かるた大会 有段者の部・上級の部 第1位
書道部 第37回信州書道展 最優秀校
美術部 高校生・中学生クリエートコンテスト2010 グランプリ!



発行・編集 長野県諏訪清陵高等学校 教務 (広報情報係) 〒392-8548 長野県諏訪市清水 1-10-1

TEL. 0266-52-0201 FAX. 0266-57-2426 <http://www.nagano-c.ed.jp/seiryohs/> e-mail: seiryohs@nagano-c.ed.jp

本誌は、県教育委員会教学指導課の「魅力ある活動支援事業」により作成しています。